

放送を巡る諸課題に関する検討会
地域における情報流通の確保等に関する分科会
ケーブルテレビワーキンググループ
第2回会合

平成28年12月5日

赤坂エクセルホテル東急

執行役員総支配人 佐久間 智義

災害情報提供における主な課題(ホテルの場合)

- 災害発生直後主に訪日外国人からの問い合わせ急増
(建物の崩壊への恐れなのか、震度3クラスでもスリッパで飛び出してくる)
- 交通機関の運行状況の問い合わせ
(自国に一刻も早く帰りたいので、空港までのアクセスへの問い合わせ)
- 日本語以外の問い合わせへの対応



<ホテルの対応(現状)>

- T V地上波・B Sの視聴のご案内
- フロント横のデジタルサイネージをN H K生放送に切り替え
- 適宜、フロントスタッフが直接対応(人海戦術)
(Webの情報をプリントアウトして、フロント横に掲出するなど…)



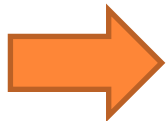
<ホテルの対応に対する課題>

- 多言語対応が難しい(特に中国語・韓国語・タイ語等)
(上記の母国語に対応できるスタッフが限られている。)
- 逐一変化する情報の収集が難しい。
- 従業員が限られており、手厚い支援が難しい。



<ケーブルテレビ事業者への期待>

- コンテンツの多言語対応
(必要なコンテンツを含んだ番組で構成された「ホテルパッケージ」の販売)
- ケーブルテレビならではの、自主制作放送の充実
(ホテル近隣の被害状況などの情報発信・屋外カメラの映像送出)
- 各ホテルで異なる屋内配線に対応したCATVシステムの革新
(保安器以降の改修コストを抑えたシステムの開発・開発への補助)



どの国のお客さまも最新の情報を確実に把握でき、それをローコストで導入できるケーブルテレビの登場を期待したい。

